

「昆虫科学が拓く世界 ---研究者の再結集を目指して---」

期日：平成20年5月16日（金）10:00～17:00

場所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）

主催：日本学術会議生産農学委員会応用昆虫学分科会

日本衛生動物学会、日本応用動物昆虫学会、日本環境動物昆虫学会、日本昆虫学会、
日本蚕糸学会、日本農芸化学会、日本農薬学会、日本鱗翅学会（五十音順）
京都大学 COE（昆虫科学が拓く未来型食料環境学の創生）

後援：日本蜘蛛学会、日本ダニ学会、日本野蚕学会

開催趣旨

わが国の昆虫科学は常に世界のこの分野を先導してきた。この実績を継承発展させるためには、昆虫学関連のあらゆる分野の研究者が今一度それぞれの課題を持ち寄り、昆虫科学研究の学術的かつ社会的な基盤を強化拡大しなければならない。その第一歩として本シンポジウムを開催し、昆虫研究者のコミュニティーの再構築を図る契機にする。

プログラム

- 第1部 昆虫学関連学協会の活動の現状と課題 (10:00～12:05)
- 司会：田付貞洋（応用昆虫学分科会委員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）
- 1) 趣旨説明：応用昆虫学分科会の目指す課題 山下 興亜
(日本学術会議会員、応用昆虫学分科会委員長、中部大学学長)
 - 2) 日本昆虫学会の現状と課題 諏訪 正明
(日本昆虫学会会長、北海道大学名誉教授)
 - 3) 日本応用動物昆虫学会の現状と課題 國見 裕久
(日本応用動物昆虫学会会長、東京農工大学大学院共生科学技術研究院教授)
 - 4) 日本蚕糸学会の現状と課題 小林 迪弘
(日本蚕糸学会会長、名古屋大学大学院生命農学研究科教授)
 - 5) 日本衛生動物学会の現状と課題 小林 睦生
(日本衛生動物学会会長、国立感染症研究所昆虫医科学部部長)
 - 6) 日本環境動物昆虫学会の現状と課題 今井 長兵衛
(日本環境動物昆虫学会会長、大阪市立環境科学研究所研究主幹)
 - 7) 日本鱗翅学会の現状と課題 石井 実
(日本鱗翅学会副会長、大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授)
 - 8) 日本農芸化学会における昆虫研究の現状と課題 長澤 寛道
(日本農芸化学会理事、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)
 - 9) 日本農薬学会における昆虫研究の現状と課題 宮川 恒
(日本農薬学会常任評議員、京都大学大学院農学研究科教授)
- 10) 総合討論

— 休 憩 — (12 : 05～13 : 00)

第2部 日本の昆虫学研究の現状と展望 (13 : 00～16 : 10)

司会：小林 迪弘 (応用昆虫学分科会委員、名古屋大学大学院生命農学研究科教授)

- 1) 昆虫学への期待 山下 興亜
(日本学術会議会員、応用昆虫学分科会委員長、中部大学学長)
- 2) 生物多様性と群集動態 湯川 淳一
(九州大学および鹿児島大学名誉教授、元九州大学総合研究博物館館長)
- 3) 害虫防除と生態学 中筋 房夫
(応用昆虫学分科会委員、岡山大学大学院環境学研究科教授)
- 4) 衛生昆虫学と感染症研究 鎮西 康雄
(応用昆虫学分科会委員、三重大学名誉教授、鈴鹿医療科学大学教授)
- 5) 昆虫ゲノム研究 嶋田 透
(応用昆虫学分科会幹事、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

— 休 憩 — (14 : 50～15 : 00)

- 6) 昆虫機能利用と技術開発 竹田 敏
(応用昆虫学分科会委員、(独)農業生物資源研究所昆虫科学研究領域長)
- 7) 昆虫に学ぶ科学(Entomomimetic Sciences)の創成 藤崎 憲治
(応用昆虫学分科会委員、京都大学大学院農学研究科教授)
- 8) 世界の昆虫研究の動向と日本の役割 佐々木 正己
(玉川大学農学部生物資源学科教授、国際昆虫学会議 評議員)

第3部：パネルディスカッション (16 : 10～17 : 00)

「わが国の昆虫学発展のために何をなすべきか? :

昆虫学関連学協会間の連携強化策としての『日本昆虫学連合 (仮称)』の設立

司会：國見 裕久

(応用昆虫学分科会副委員長、東京農工大学大学院共生科学技術研究院教授)

パネラー：昆虫学関連学協会代表 (第1部 講演者)

参加申込方法

当日直接会場にお越し下さい。

* 定員 (300名) となり次第、締め切りとさせていただきます。

問い合わせ先： 応用昆虫学分科会幹事

嶋田 透 (東京大学) 電話： 03-5841-8130

後藤千枝 (中央農業総合研究センター) e-mail:scjentomo@naro.affrc.go.jp